

**初代作『鶴』の復元を初お披露目！江戸のロボットが現代に蘇る
「からくり人形師 九代玉屋庄兵衛展 – 伝統の技と挑戦 –」
4月21日(水)より横浜高島屋にて開催**

このたび高島屋では、日本を代表するからくり人形師・九代 玉屋庄兵衛（1954年～）の展覧会「からくり人形師 九代玉屋庄兵衛展 – 伝統の技と挑戦 –」を、2021年4月21日（水）から5月10日（月）まで横浜高島屋ギャラリー<8階>にて開催します。

本展では、からくり人形師・九代 玉屋庄兵衛が手掛けた“山車からくり”や“座敷からくり”の代表的な作品をはじめ、“創作からくり”の最新作など約40点が一堂に展示されるほか、本展に併せ復元に取り組んだ初代作の『鶴』も初お披露目となります。

からくり人形の伝統を継承し、修復・復元、創作活動を続けてきた、九代 玉屋庄兵衛の技と匠の世界をご堪能ください。

・告知動画 URL：<https://www.youtube.com/watch?v=34atfPRG-0w>



<展示概要>

人をかたどった木の身体に着物を着せて顔を描き、その手・足には木でできた歯車が仕掛けられている“からくり人形（動く人形）”。その歴史は古く、原点は平安時代にあると言われています。江戸時代には広く庶民に愛され、職人の手によって一体一体個性を持った人形が数多く生み出されてきました。

本展では、日本を代表するからくり人形師、九代 玉屋庄兵衛の作品を一堂にご紹介します。“山車からくり”“座敷からくり”の代表的な作品をはじめ、初代作『鶴』を復元した“創作からくり”の最新作を展示します。

また、それぞれの作品の動画や、来場者がからくりの仕掛けを体験できる人形の設置などを行い、からくり人形を様々な角度から紹介します。

■ ^{だし}山車からくり人形

山車祭りは、江戸時代の町人文化が華開いた曳山の祭りです。当初は山車に人形が載せられただけの簡素なものでしたが、その人形に仕掛けをしたのが、山車からくり人形のはじまりです。

本展では、七代目が復活させた『かまきり』や、近年の作『^{めえ}鶴』や『二福神』などを展示します。



半田西成岩『鶴（弓張月の対峙）』（2007年作）



犬山祭梅梢戯（2002年作）

■ 座敷からくり人形

座敷からくり人形とは、人形の内部に歯車・カムなどのメカニズムとぜんまいの動力を持ち、自動でうごく人形のことです。からくりのことを“機巧”と漢字で表すことからその作りが想像されます。

本展では、有名な『茶運人形』をはじめ、『独楽廻し人形』『弓曳童子』『文字書き人形』などを展示します。



「茶運人形」（1995年作）



「弓曳童子」（1998年作）



「文字書き人形」（2012年作）

■新作創作からくり人形

九代 玉屋庄兵衛は、独自の感性でこれまでにない新しいからくり人形の制作に挑んでいます。

本展では、初代作『鶴』の再現にはじまり、からす天狗が御籤を引いてくる『船弁慶からくり御籤』、スケッチ画のみから形にした『弓曳小早舟』などの新作創作からくり人形を展示します。



「弓曳小早舟」(2009年作)



「船弁慶からくり御籤」(2018-19年作)

<公式図録>

本展の公式図録(A4 変形 96 頁) 税込 2,000 円 を会場にて限定で販売いたします。

<会場情報>

- ・会期/会場：2021 年 4 月 21 日（水）から 5 月 10 日（月） 横浜高島屋ギャラリー〈8 階〉
- ・入場時間：午前 10 時～午後 6 時 30 分（午後 7 時閉場）
 - ※最終日は午後 4 時 30 分まで（午後 5 時閉場）
 - ※都合により変更になる場合がございます。最新の情報は横浜タカシマヤホームページをご覧ください。
 - ※WEB での日時事前予約なしでご覧いただけます。
 - ※会場の混雑状況により、入場制限をさせていただく場合がございます。
- ・入場料：一般 1,000 円（800 円）、大学・高校生 800 円（600 円）、中学生以下無料
 - ※（ ）内は前売りおよび団体 10 名様以上の割引料金。
 - 前売り券はローソンチケット（Lコード：31409）、セブンチケット（087-973）にて 4 月 20 日（火）までお求めいただけます。
- ・WEB サイト：<https://www.takashimaya.co.jp/yokohama/special/tamayasyoubei/index.html>

<主催> NHK プロモーション

<制作協力> NHK エンタープライズ中部

<監修> 九代 玉屋庄兵衛

<九代 玉屋庄兵衛について>

1954 年（昭和 29 年）、愛知県名古屋市の生まれ。昭和 54 年（1979 年）25 歳で七代目に弟子入りし、平成 7 年（1995 年）41 歳の時に九代目玉屋庄兵衛を襲名しました。

平成 10 年（1998 年）に幕末のからくり人形師・田中久重が制作した『弓曳童子』の完全復元に挑戦し、成功。2014 年（平成 26 年）には、卓越した技能者として現代の名工に選ばれています。

「初代ゆかりの鶴を復活させるのが夢」と語り、鶴の骨格を研究するなどして復元に挑んでいます。

